



**新しい13番街からつなひきに初参加 そして結果は？
 以下はその奮闘記です。**

子ども代表 佐々木皓平
 ぼくは「1回戦で負けるだろうな」と思っていたのですが、ぼくの思ったことははずれ、逆に勝ちつづけるのでちょっと信じられませんでした。

最後の決勝戦で去年も優勝している5番街とあたり、はじめは13番街が引いていたけれど残念ながら負けてしまいました。

でも、初出場場で準優勝だったので、いい賞品がいっぱいもらえてうれしかったです。来年はみんなで優勝をめざしてがんばりたいです。

お母さん代表 永井慶子
 日ごろ何も運動をしていないので、ストレス解消にと参加しました。同じ番街でも知らない人と力を合わせて綱をひっばって、とても楽しかったです。でも次の日体はガタガタで

した。
お父さん代表 平見勝洋
 ベイタウンに引っ越してきて1年。今回初めてベイタウンの行事に参加

しました。近所づきあいもまだ少なく、少しでも輪が広がれば・・・と気軽に出場しました。結果準優勝と自分でも驚く成績でした。来年はもう一つ上をねらえるようがんばりたいと思います。また、これを機に住民の親睦がはかれたらと思います。



ヒマワリロードを夢見て

溜 昭代（前打瀬小学校長）

今年のベイタウンまつりは、ヒマワリの種蒔きに参加しました。

長野県飯田市にはリンゴ並木があります。これが有名なのは、飯田市立飯田南中学校が戦後の大火のあと、区画整理でできた広い道路の中央にリンゴを植えたことと、それから50年もの長い間、中学生が世話をし続けていることです。リンゴの世話は大変で、何千個という収穫を楽しむまでには様々な作業が必要だということを、飯田南中学校を訪れて知りました。長野県は、教育県で有名です。さすがやるのが半端ではありません。いいことは継続させるのですね。特色ある教育・特色ある学校づくりとは、実は、こういうことだったのです。

「飯田市の向こうを張って、ベイタウンのヒマワリロードも素敵だなあ」、「カンナのような宿根草にすれば楽か

な」と考えながら作業を楽しみました。

バーベキューで牛肉がかみ切れなかったこと、ビールを飲み過ぎて酔ってしまったことの二つは、年をとった証拠でしょう。久しぶりに皆さんに会えて楽しいお祭りでした。



宴の後に残ったもの

幕張ベイタウンまつり '99 をふりかえって

今年も五月晴れの中、ベイタウンまつりが開かれた。祭りの実行委員会が組織されたのは2月の寒い日であった。主催は自治会連合会。この祭りも今年で3回目を迎える。住民主催になってから2回目である。みなさんご存知のとおり、この祭りは住民、住宅事業者、千葉県企業庁の3者を中心に、商店会、小中学校、一般企業の協力のもとに企画、実施されたのである。

5月8日、あなたはベイタウンの街を歩いてみましたか。様々な自主企画、サークル企画、模擬店、フリーマーケットが同時進行していた。実行委員の小生が言うのもおかしいのだが、やっぱりこの街はちょっとおかしい。これだけの規模の祭りを企画し、参加し、楽しんでしまうのだから。冷静に見ても、これはすごいことだと思う。個人を見れば、それぞれの家庭があり、それぞれのもつ時間がある。それがベイタウンというコミュニティー、街区というコミュニティーのなかで“個人の自由になる時間”を何に置き換えているのか。お酒を飲む、家族と遊ぶ、サークル活動に参加する、自治会活動に参加する。要は、いかに

“楽しむ”がやはりキーワードなのだろう。祭りの最中プロムナードを歩きながらそのようなことを、ふと考えていた。

このような祭りを2年間行ってきたわけだが、ある方から“ベイタウンまつりのコンセプトは何？”と聞かれてしまった。心の中で、とうとう聞かれてしまったと思っていた。はっきり言ってないのである。情けないことである。実は、今年の祭りの実行委員とは随分と議論したのであった。しかし、できあがった祭りには一本の柱がなかった。そして、今年も。実行委員会は、にぎわいの創設方法、個々の企画の円滑なる運営にばかり注視していた。コンセプトがハレの創出のみというのは、やはり寂しい。しかし、一つ一つの企画に目をむけると、街区内でのコミュニケーション強化、知らない家族と友達になろう、など隠された目的があるのであった。

さて、来年もお祭りはあるのでしょうか。“幕張ベイタウンまつり2000”という名の。人口10,000人の街のお祭り、どうなるのでしょうか。もう、ちょっとした祭りではないのです。ベイタウンニュースを読んでいるあなた、来年のベイタウンまつり実行委員になってみませんか。考えを具現するいい機会だと思います。それから、是非、お祭りに対する意

見を聞かせてください。コンビニの投書箱に入れていただくとありがたいです。

幕張ベイタウンまつり '99 実行委員会メンバー紹介（敬称略）

1 番街；瀧本、2 番街；計良、3 番街；金、4 番街；犬井、5 番街；田村、松戸、6 番街；米沢、8 番街；吉識、砂原、10 番街；松村、和田、小畑、11 番街；小谷崎、12 番街；山崎、大久保夫妻、高田、16 番街；永田、17 番街；佐藤（総）

当日お手伝いいただきました各街区サポーターのみなさま、ありがとうございました。

幕張ベイタウンまつり '99 実行委員会



県企業庁と市、コミュニティコアで基本合意

図書館と公民館を核とするコミュニティコア第1期の建物に関して、千葉県企業庁と千葉市はこの4月、市が建設主体の県企業庁から土地とともに無償で譲り受けて管理する方向で基本合意しました。建物を建設するのは県企業庁、管理するのは市、と役割分担がはっきりしたことで、2001年度完成に向けて、ようやく施設計画を具体的に検討できる段階に入りました。県企業庁では「今年度内に市や住民などと協議のうえ設計作業を終える考え」（幕張新都心建設課）とのことです。

県企業庁は昨年8月、第1期の建物に関して①全体を外郭団体などで管理して、図書館と公民館の部分を運営主体の市に賃貸する（賃貸案）②全体を市に無償で譲り渡して、管理は市に委ねる（譲渡案）—の2案を市に示しました（98年10月1日発行第17号参照）。これを受けて市は、維持・管理にかかる財政負担は大きいものの「住民の利用を考えると有益」（企画調整局政策調整課）との判断から、市で建物を無償で譲り受けて全体を管理する「譲渡案」の採用を決めたといえます。

コミュニティコアの施設計画に関しては、県企業庁や市、自治会連合会代表、住宅事業者らで組織した「コミュニティコア事業化研究会」（会長＝生越雅彦・県企業庁地域整備部次長、肩書きは当時）です。すでに、①2001年度を完成めどとする早期整備施設と将来整備施設とに分ける②早期整備施設としては、図書館と公民館を中心に郵便局や多目的スペースを整備する—との方向性を打ち出しています。今後は、研究会報告をもとに計画を描いていくことになります。

施設計画を検討していくうえで大きな論点になりそうなのは、①多目的スペースをどんなものにするか②

全体をどう構成するか—の2点です。

多目的スペースをどんなものにするかは、研究会報告の中でもはっきりとは定めていません。住民要望をもとに、日曜大工や子供の工作の場、楽器練習や音楽サークル活動の場、マルチメディアAVルーム、子供ルーム、といった候補をあげている程度です。

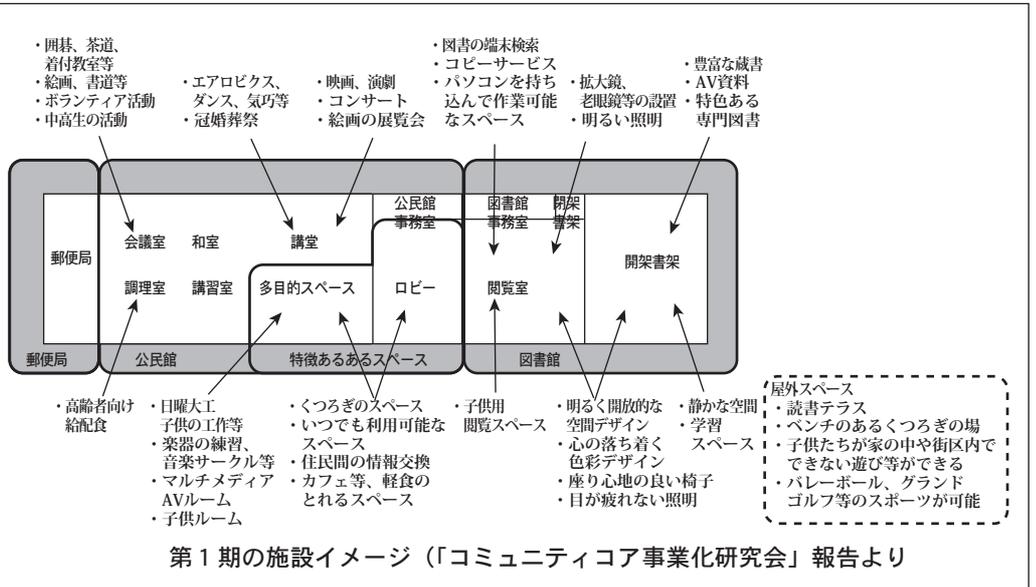
施設を所有・管理することになる市でも「これから考えていく」（企画調整局政策調整課）とのこと。ただ、考え方としては「まず公共公益施設で必要なものはないかを探って、適当なものがなければほかに賃貸するとか開放することを検討する」（同）ことになるようです。ここでいう公共公益施設としては、例えば出張所や子供ルームなどが考えられます。

全体の構成も、研究会報告の中では第1期建物の構成要素をあげている程度なので、未定です。図書館、公民館といった構成要素の規模や具体的内容と並行して検討することになるのでしょうか、四角い箱の中にそれぞれ部屋として配置する単純な案から、例えば中庭を囲んでそれぞれを一体的に利用できるよう空間づ

くり工夫をこらしたような案まで、さまざまなプランを考えることができそうです。

運営がどうなるかも気になるようです。建物全体として使い勝手のいい運営を目指していくのか、図書館や公民館といった施設ごとのバラバラの運営でよしとするのか。図書館に関して言えば、住民要望にあるような、屋外スペースなどこでも本を読むことができる運営を期待するのか、など。施設計画とも密接に関係する点が少なくないだけに、計画が固まる前にある程度はっきりさせておく必要があります。

県企業庁によれば、計画案づくりに向けた市との協議が順調に運ばば、この夏くらいには住民に検討のたたき台になる案を示す予定といえます。研究会報告で「将来整備施設」とされた2期以後の計画に関しては依然白紙のままでコミュニティコア全体として整合のとれたものにできるか不安材料は残るものの、まずはその点も念頭に置きながら、第1期を悔いの残らないものにするよう声をあげていきましょう。（茂木）



こむこむコーナー

ベイトウンこむこむ定期会合（5月、2回開催）抄録

● 青少年育成委員会と自治会連合会との連携

青少年育成委員会から、今年度の活動方針として、地域の方々との連携をさらに強化したいという主旨で、各単位自治会より育成委員会へ委員として1名を参加させて欲しいとの要請が自治会連合会にありました。（従来は連合会として3名が参加）これに対し、連合会では各単位自治会に委員選出の検討をお願いしました。

● ベイトウンネットメンバーの連合会定期会合へのオブザーバ出席について

ベイトウンネットの代表の方が連合会の会合に参加し、

活動の主旨を説明しました。ベイトウンでのコンピュータの普及率およびメディアとしての有用性、将来性等が議論されましたが、今後ネットのメンバーが連合会の定期会合にオブザーバとして出席することを認めました。

● 連合会第3回定期総会の実施について

標記総会を下記の要領で実施いたします。傍聴は自由です。みなさんご参加ください。

1. 日 時：6月13日（日）15:00～
2. 場 所：パティオス6番街集会所（4番街側に入口があります）
3. 議 題：H10年度活動報告、H10年度決算報告、H11年度予算（案）、H11年度役員選出、その他。



三世代の歌声が幕張メッセに響く

来る6月12日(土)の県民祭に幕張メッセ国際展示場5ホール「祭りの広場」で打瀬小学校・中学校の生徒さんたちと私たち女性コーラス『瀬音』が三世代で、千葉県民歌・となりのトロメドレーの2曲を歌います。『瀬音』のメンバーは20代～70代なので、小・中学校の生徒さんを含めると、まさに三世代になります。それぞれが個別に練習を重ね、さらに2回の合同練習を致しました。小学生たちの指導は浪岡浩子さん(パティオス9番街)、中学生の指導は音楽の伊藤先生、そして佐藤柳さん(パティオス16番街)は私たち『瀬音』の指導と、全体のまとめをして頂いています。

さて、『瀬音』の私たちは、大勢の方の前で歌を歌うなんて考えてもみない事でした。うれしいやら、はずかしいやら、そして心配やら…。でも、皆さんはりきって練習をしています。本番で間違わず、きれいな声で、気持ちよく歌えますようにと祈る思いです。

『瀬音』世話役 和田康子1番街508号

親子三代コーラスの練習は、去る5/22(土)に打瀬中学校アリーナでも合同の音合わせが行われました。当日は主催者の幕張メッセ、前教育委員長、打瀬中学校の先生方も見られ、各機関からのこのイベントにかけの意気込みが伝わるようでした。日頃親子で歌を歌う機会が少なくなり、まして三世代が合唱するなどとはとても珍しいことです。小・中学生、ママさん世代、そしておばあちゃん(失礼!)のハーモニーはとても胸あたたまるものでした。子供たちも、違った世代の人達と歌うことを心から楽しんでいたようです。

この合同レッスンは来る6/5(土)2時から、打瀬中学校アリーナ(体育館)で行われます。見学は自由です。ベイタウンの違った一面が見えますよ。(編集部)



歩いて10分の日本庭園に出かけてみませんか～美浜園(みはまえん)～

6月15日(水)「千葉県民の日」は例年どおり入園と駐車場料金が無料で解放されます。ベイタウンから歩いて10分少々です。お茶室は椅子席になっていて気軽に抹茶(有料)が楽しめます。ご家族連れのご来園をお待ちしています。問い合わせ: TEL.296-0110/ 県立幕張海浜公園管理事務所 大橋朝馬(パティオス11番街)

ベイタウンでもかるがも親子の引っ越しがありました。

場所、日時等はかるがも君たちの静かな生活のために発表できませんが、ベイタウンでも皇居のかるがももよろしく親子のかるがもが近くの池への引っ越しをしました。空き地では着々と自然が回復しています。



本物のビオトープを見に行こう

ビオトープ公園をつくる会では、千葉県立中央博物館での「本物のビオトープ」見学会を企画しています。これはベイタウンにはどんな自然公園が良いかを探る試みのひとつで、先月行われた花見川遊行サイクリングにつづくものです。

日時: 平成11年6月20日(日)、9:00 ベイタウン出発予定
交通手段の打ち合わせ等の都合があるため詳細は TEL:211-7736 小川、211-6853(松村)宛か、近日中に各番街に掲示予定のポスターをご覧ください。

ベイタウンネットから、祭りについての話題

住民ボランティアにより運営されている、ベイタウンネット (<http://www.3.makuhari.or.jp/baytown/index.html>) 上で、ベイタウン祭りを話題にした意見が活発化しています(ミラリオのハナブチさんからの紹介)。元となった意見は、祭りの開催場所に隣接するパティオスの住民の方からの「祭りの開催場所近辺の歩道やパティオ内に、屋台から出たと思われる液体、食べこぼし、飲みこぼしの染みが付いたままで不衛生・不快。パティオ内に子供たちが大挙して押し寄せ、管理人や住民の制止を無視して池の中や植栽に入り込み遊んでいた。祭りという性格上、ある程度の騒音などはしょうがないが、特定の番街が被害を被るのは理不尽では？」といった主旨のものでした。この意見を発端に、「住民ボランティア(主催者・出店者)の責任範囲とは？」といった核心部分に迫るやりとりや、「ベイタウンにはそのような度の過ぎた子供をしかる頑固おやじがいけない」とか、「住民ひとりひとりが自分の出したゴミに必ず責任を持つよう呼び掛ければ？」といったごもつともな意見も出ています。

一方で、「ベイタウンまつりの『段ボ・パーク』の片づけの際、一番奥で遊んでいた打瀬小三年生の男の子3、4人のグループが、スタッフに混じって率先して片づけを手伝ってくれました。親御さんの中で手伝ってくれた方は何人かいましたが、遊んでいた子どもが、自主的に片付けてくれた事はとても嬉しかったです。あの時の子どもたち、どうもありがとう！」という投書もありました(17番街川又さん)。

ただ「楽しかった」だけでは片付けられない祭りの反省を、どのように来年、再来年の発展形に結び付けるか…歩きはじめてばかりの私たちの街に課せられた、ひとつの大きな課題です。この件についてのご意見がありましたら、ベイタウンニュースまでお寄せ下さい。また、興味がある方は、ベイタウンネットを訪ねて下さい。

ベイタウンでフランス語を習いたい方、入門、初級から中級まで、個人でもグループでも丁寧に教えます(平日昼間のみ)。詳しくは、お電話でご相談下さい。

パティオス3番街220号 金 年恵 (TEL:211-0388)

トライアスロン大会のお知らせ

「1999年幕張新都心トライアスロン大会」が以下の要領で開催されます。昨年同様、大会をボランティアでバックアップしたいと思いますので、皆さんのご協力をお願いします。詳細は追ってご連絡します。

日時：1999年9月26日(日)午前8時スタート

主催：幕張新都心トライアスロン大会実行委員会

主管：千葉県トライアスロン連合(C T U) TEL:047-326-3037

文化・スポーツ委員会 内田

企業庁および交通委員会より

コア予定地脇の有料駐車場には、まだ定期的な駐車場ワクに若干の台数の余裕があります。定期券の購入ご希望の方はお早めに下記までお申し込み下さい。尚、定期券は毎月新規に発売されます。今回抽選に漏れた場合でも、翌月また可能性があります。

お申し込み、お問い合わせは

TEL:043(296)3301 第二駐車場管理事務所まで

編集局からのお願い

ベイタウンニュースでは、ニュースサポーターとしてベイタウンニュースの配布などをお手伝いして頂ける方を募集しています。現時点でも多くの方に協力頂いていますが、最近は毎回折り込みも多く、配布日となると作業場である10番街集会所はおおわらわです。人出が足りないときには一人が複数の街区を担当することもあります。さらに7月から9月にかけて新しい街区が続々オープンすると、財政面だけでなく、体力面でも非常にきびしくなります。毎月第一土曜日10:00から、手の空いている人はパティオス10番街集会所に助けに来て下さい！ここに来れば、単なる作業だけでなく、いろんな街区の仲間たちが待っています。

編・集・後・記

◆ベイタウン祭りでは駄菓子売り、普段あまり子どもと縁のない私も子どもたちと交流のときを持つことができました。腰をかがめて応対したために翌日はからだの痛みなどの後遺症も残りましたが楽しいひとときでした。ただし駄菓子売りに一生懸命で、あるいはビールを飲みすぎて(!?) 祭りの取材がおろそかになったのが反省点でした。でも商売っておもしろい。来年は「売り上げ倍増！」をめざすぞ！

タウンスケッチ記者：#3-310 佐藤則子 (T&F:211-0090)

◆7月31日にメッセの駐車場でGLAYのライブがあります。カミさんがファンなので仲間が各地から押し寄せてきて、合宿所状態になりそうです。そういえば、展示場ではかつてprodigyという連中もライブをやったことがあります。「メッセ」というコンセプトにとらわれない、巨大空間を生かした活用法をもっと探れないものか、と思います。

記者：茂木俊輔 (T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

◆ベイタウン祭で蒔いたヒマワリが芽を出しています。雨が少なく、芽が出るか心配でしたが、この25号が配布される頃には10cmを超えるくらいの高さになっているでしょう。しかし散策は気をつけて！メッセ大通り沿いの未整備地は、今や広大なお花畑と化しています。じゃがいも、ダイコン、紫ツククサ、西洋月見草、ハーブ。そして、その脇では、よく注意してみると雑草にまじってキバナコスモスやホウセンカが去年咲いた後タネを落とし、自然に発芽しています。

これらの花や野菜は、言うまでもなく前打瀬中学校長の渡辺先生が植えられ、お一人で手入れされていたものですが、更に歩を進めて打瀬中学校の周りまで行くと、花の種類と量は驚くばかりで、正に咲き乱れるという表現がぴったりです。さて、これらの花々はこれからどうなるのでしょうか。来月号ではベイタウンのお花畑新時代をつげる、打瀬中学校と住民の物語をお知らせしたいと思います。

技術：#10-612 松村守康 (T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

◆久しぶりに晴天の続いた5月の週末。子供達と野球の練習をどこでやろうかと場所を探しているうちに、目に入ったのが散髪したばかりのような7番街東側の空地。企業庁からは「絶対に入ったらダメ！！」といわれている空地の柵をくぐって思わずカッキーン。その時は楽しかったのですが、後で思えば中は穴ぼこや石ころだらけで全然整地はされていません。確かに、子供達だけで遊ぶと足を引っ掛けたり、つまずいたりケガをする危険も充分に考えられますが、親が責任を持ってついでにいれば大丈夫かなとも思ったりして。やっぱりどうしてもあの空地を何とかしたいと思った一日でした。

こむこむ広報：#5-205 田村伸彦 (T:211-0095/tamu@mes.co.jp)

◆越してきて、今年が初めてのベイタウンまつり…。イベントについては、先月号でマップを描いていたので、詳しく分かったつもりになっていました。しかし、当日…駄菓子の板東屋には、子供たちが次から次へと買い物に来てくれて、他の店舗・イベントを見る時間はほとんどありませんでした。これじゃあ、皆さんの方が「まつり通」かもしれませぬ。また、板東屋の周りから離れられなかったので、左の欄のような”まつりの時の、迷惑な話”にも気が付きませんでした。ハナブチさん、ご投書ありがとうございました。しかしこうなると、来年のマップには「ゴミはゴミ箱へ」などの”注意書き”を増やすべきなのではなかろうか??ね。

記者：ミラリオ浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

◆ベイタウン祭りでは、「板東屋」の屋号は提供しましたが、実は私自身は旅行中で、店番はできませんでした。身内(編集局メンバー)からは「盛況だった」と聞きましたが、皆さんは楽しめましたか？資金がないくせに、いざとなると「儲けより子供たちに楽しんでもらえれば良い」と言って、つい放漫経営になりがちな「板東屋」ですが、固定資産(看板等)もできたので、来年こそ経営改善したいものです。

編集：#1-210 板東司 (T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

また、ベイタウンニュースへの投書は、ファミリーマート、デイリーヤマザキ、リンコスに設置の青い投書箱または上記記載のE-mailアドレスまでお願いします。ただし、無記名のもの(当方から連絡のとりようのないもの)は一切お取り扱いできませんので、あしからずご了承下さい。

打瀬中学校に赴任して

千葉市立打瀬中学校 校長 石原 通男

定期異動により、渡辺校長の後任として、4月1日より打瀬中学校に着任いたしました。

本年度、本校では渡辺校長を含め4名の教職員が転出し、新たに5名の教職員が加わりました。全校生徒数は215名（1年生79名、2年生73名、3年生63名）、学級数は全校で6学級です。

平成11年度も約2カ月が経過しましたが、全力投球3S（Study、Sport and Selection）を合言葉に、生徒は学習はもちろん、部活動に、委員会活動にと意欲的に取り組んでいます。

恒例の絵を描く会は、5月1日に晴天に恵まれ予定通り実施できました。3年生にとって、楽しみな京都方面への修学旅行は、5月24日から26日にかけて2泊3日で行われました。準備段階から実行委員を中心に意欲的な取り組みがなされたので、多くの生徒にとって、よい思い出が沢山残ったことと思います。1年生の鎌倉への校外授業は、6月2日の予定です。実行委員会を組織し、準備を進めています。

さて、学校運営にあたっては、過去4年間の実践を通して積み上げら

れた成果を継承しながら、本校教育の基本方針「個性を生かす教育の実現」をめざしてまいりたいと考えております。

具体的な努力目標として、第一は、「個性を磨く学習指導の推進」です。教科センター方式を生かし、自ら学ぶ意欲を育て、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、個に応じた指導の工夫や一人ひとりの学習進度に応じたわかる授業、楽しい授業づくりに全職員で取り組んでまいります。

第二は、「心の教育」の充実です。本校では、めざす生徒像の一つでもある信頼・敬愛の精神を基礎として「制服なし、校則なし、ノーチャイム」を学校生活の基本としております。生徒は、主体的に授業や部活動等に取り組み明るく元気に学校生活を送っております。

今まで以上に、生徒との触れ合いを大事にし、「相談活動の充実」、「朝の読書」、「各種行事での体験活動」等を通して、思いやりのある豊かな心を育ててまいりたいと思います。

第三は、学校・家庭・地域社会の連携です。

地域ぐるみで子どもを育てることの重要性とその必要性が、今日強く叫ばれております。学校・家庭・地域社会がそれぞれにその役割を見つめ直し、三位一体となって、子どもの教育に真剣に取り組むことが求められております。

本校では、昨年度、授業や文化祭等の学校行事に保護者並びに地域の皆様に多数ご参加いただきました。生徒の活動の様子をご覧いただくとともに、一緒に活動していただいたり、時には、保護者や地域の方が指導者になっていただきました。本年度は、特に「水曜日の午後の活用」も含めて、皆様方のご協力をいただきながら具体策を検討してまいりま

す。

2002年からスタートする第3の教育改革への試行も視野に入れて、一人ひとりの生徒が、素晴らしい環境のもとで、明るく生き生きと学校生活を送れるよう、教職員一丸となって頑張りたいと思います。

どうぞ、保護者並びに地域の皆様、これからも打瀬中学校の教育にご理解とお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

ベイトウンニュースでは発刊以来、打瀬小学校の教頭先生と打瀬中学校の校長先生に、毎月学校の様子や教育に対する考え方などを執筆いただいて来ました。今年は中学校では渡辺校長先生が移動で石原通男校長先生が、また小学校では穴倉教頭先生が移動で林廣明教頭先生が、4月から新しく赴任され、お二人の先生に新たに原稿の執筆をお願いすることになりました。

ベイトウンニュースへの原稿執筆は本来学校の業務ではなく全くのボランティアの仕事ですが、ベイトウン住民が教育ということ街の大きな特徴として意識していること、また、ベイトウンニュースが学校と地域の橋となることを大きな目標のひとつとしていることとお話ししたところ、お二人の先生とも快くお引き受け頂きました。

今号は、最初の原稿ということで、お二人の先生とも幾分緊張した文面で、住民の皆さんへのご挨拶という感じの記事となりましたが、2年前にベイトウンニュースが小中学校の先生方に原稿執筆を依頼した時よりも、学校と地域の距離は遥かに近くなっていると感じます。これから力を合わせて教育の街ベイトウンを作りたいと思います。

ベイトウンニュース編集局



オープンスクールに再び赴任して

千葉市立打瀬小学校 教頭 林 廣明

再び海岸地域の新設校へ

この4月、定期の人事異動により花見川第五学校より参りました。海岸地域の学校は約20年振りです。幸町第四小学校という新設校です。思いきり仕事ができ、楽しく勤務できましたので、充実していた思いがあります。職員が各自の本務を果たそうとする気持ちが強く、前向きである点は打瀬小と同じでした。ここでも、再び楽しい思い出ができると期待しています。

再びオープンスクールへ

2校目は、緑区にある有吉小学校で開校から4年間、教務主任として勤務していました。そのようなことからでしょうか。原稿依頼の内容は、「前任のオープンスクールと比較して」というものでした。

そこで、これ以降の項では、人的環境（職員・児童）と物的環境に分けて、それぞれの特徴について述べてみたいと思います。もちろん、物的環境と言えども人の生活と分けて考えることはできません。結局は、学校（校長・職員）の持つ理念と施設・設備との相互関係について、個人的な考えを述べることになると思います。

教育観と指導形態・児童の活動（オープン校に共通する理念）

オープンスクールを希望して来る教員は、新しい考えで教育していこうとする基本的な考えがあります。これは、「奇抜」であるということではありません。本来あるべき、子供の立場になり、教育活動を進めていくにはどうすればよいか、との考えに基づくものです。

そのように考えますと、子供の要望に基づく学習は多様化せざるを得ません。すると、教師がチームを組み授業を展開する形態が自然になります。

このような学習形態を可能な限り取り入れ、子供個々の願いをかなえたいとする思いは共通しています。

校舎の構造がオープンである特性を生かして、子供達同士も「開かれた関係」にしていきたいとの思いは自然に生まれます。異学年交流の発想です。兄弟姉妹が少なくなり、放課後の集団による外遊びがほとんど失われてしまった現代、社会人として円滑な人間関係が築けるようにするため、必要な教育活動になってしまいました。フレンド活動は、開かれた人間関係を築くための試みの1つです。

教室の配置と学習環境・異学年交流に関して

－建物の構造の違いから－

有吉小の校舎は、廊下部分から枝別れする形で、学年毎に独立していました。約6教室分の長方形の空間に、4つの教室が扇形に配置され、扇の要の部分が2教室分の広いワークスペースになっており、課題別学習始めのオリエンテーション等はそこで行っていました。その後、課題別に各教室に別れ、グループや個で調べ学習を進めていました。

この構造の利点は、大人数が集まる空間が確保でき、他学年の音声の干渉を受けることなく説明を聴ける点です。また、集団の集合、分散が効率的に行えます。

敢えてこの構造の欠点を挙げれば、学年毎の独立性（学年毎の空間の閉鎖性）が高い分日常の学年間の交流が妨げられる傾向があることだと思います。施設がこのような特徴を持つ場合、異学年交流を意図的に行う必要があります。

打瀬小の校舎の構造は、学年の壁までも取り払った点々が、徹底しているといえます。したがって、学年間の交流（個人間の）が、自然に行われる可能性が高くなります。また、校内の任意の場所への移動が容易である点も、利点だと思います。

一方、一層開放的にしたための欠点もあります。

それは、音の響きが遠くまで達してしまう点です。天井が高い分、また、吹き抜けの空間が大きい分、音声がさらに拡大される結果になっています。このような場合は、互いを尊重する立場から、思いやりの気持ちを持って活動することが大切になります。いつも自分がではなく、常に他との関係で生活しているとの自覚と指導が求められます。

このように、それぞれの長所はすなわち短所ともなっていると考えられます。あとは、日常生活する職員と児童がその点を十分自覚し、利点を生かしていくとともに、マイナス面については、その影響を最小限に止めるよう共通理解を継続して行っていくことだと思います。本校では、「相手に対して思いやりの気持ちを持つ」ことを最優先にして、指導を行っていきたいと思います。

